

春期テキスト

必修編

国語

中学
新

2年

第5講座 古典 — 古文の読解

確認問題

次の古文と現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。

(古文)

奉公人のはてと覚しきが宿をかり、よもやまの事を語り尽くしけり。亭主ほめて「いかさまただの人とは見え候はず。もはや休みたまへ。夜着を参らせんや。」と言ふ。「いやいかほどの野陣山陣をしつけ、少々寒きことをば知らず、無用。」と言ふて、着のまま寝ねけるが、夜ふくるに従ひ、ひたもの寒し。「時に亭主亭主これの鼠には、足を洗はせられたか。」と問ふ。「いや、さやうのことはなし。」と答ふ。「それならば、むしろを一、二枚着せられよ、鼠が、着た物を踏まば、むさからうずに。」

(現代語訳)

武家の家来のなれのはてと思われる人が宿を借り、いろいろさまざまなことを語りつくした。宿の主人がほめて「ほんとうにあなたは普通の人には見えません。もうお休みなさいませ。ふとんをお持ちしましょうか。」と言った。「いや、たくさんの野山の戦いをしてきたので、少々のことなら寒さは感じません。無用です。」と言って、着物を着たまま寝たが、夜がふけるにつれて、非常に寒い。そこで「ところで、亭主亭主、この家の鼠には、足を洗わせたか。」と聞いた。「いえ、そのようなことはありません。」

と答えた。「それならば、むしろを一、二枚着させてください。鼠が私の着ているものを踏むと不潔だろうから。」

問1 仮名遣い — 線①「たまへ」、— 線④「さやう」を、現代仮名遣いに直して書きなさい。

① () ④ ()

問2 内容理解 — 線②「無用」とありますが、何が無用なのですか。古文中から一語で抜き出しなさい。

()

問3 内容理解 — 線③「時に亭主亭主これの鼠には、足を洗はせたか。」とありますが、このように聞いた理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 寒くてたまらないので、むしろを借りたかったから。
イ 亭主ともっといろいろな話をしたかったから。
ウ 亭主をからかって楽しもうと思ったから。
エ 鼠には注意すべきだと教えたかったから。

()

問4 主題 この話のおもしろさはどんなところですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いつでもどこでも身なりに気をつけること。
イ 立派な武士でも鼠だけは恐ろしかったこと。
ウ 武士が調子にのっていばり出したこと。
エ みえを張って、後で痛い目を見たこと。

()

要点のまとめ

1 古文の仮名遣い(歴史的仮名遣い)を理解する

1 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」 ↓わ・い・う・え・お

例 思ひて↓思いて

2 め・ゑ・を↓い・え・お

3 ぢ・づ↓じ・ず

4 発音の変化に着目する。

- ・ア段の音+う(ふ) ↓オ段の長音
・イ段の音+う(ふ) ↓「〇ユウ」
・エ段の音+う(ふ) ↓「〇ヨウ」

2 古文の大意を捉える

1 話のあらすじを理解する。

- ・場面を捉える。
・登場人物を整理して、主人公が誰かを理解する。

2 主人公の行動を読み取る。

- ・主人公がどこへ行き、どんなことをしたのかを読み取る。

3 話のおもしろさや教訓をつかむ。

- ・話からどんな教訓が導かれているのかを理解する。

演習問題

1 次の古文と現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。

(古文)

恵心僧都みしんそうづ年たかくわりなき母を持ちたまひけり。志しは深かりけれども、いと事もかなはねば、思おもふばかりにて、孝養たうやうすることもなくて過ぎ給たまひにけるほどに、しかるべき所に仏事ぶつじしける導師だうしに請まねぜられて、布施ふせなど多く取り給たまひたれば、いとうれしくて、すなはち、母のもとへ相あひ具してわたり給へり。

この母、世よのわたらひたえだえしきさまなり。いかによろこばれんと思ふほどに、これを打ち見て、うちうしろむきて、さめぎめと泣なかる。いと心得こころえず。君きみ、うれしさのあまりか、と思おもふ間に、とばかりありて、母の言ことふやう、「法師ほふし子こを持ちては、我われ、後世ごせを助けらるべき事とこそ、年来としごうはたのもしくて過ぎしか。まのあたり、かかる地獄ぢごくの業ごうを見るべき事かは。夢にも思おもはざりき。」と言ことひもやらす、泣なきにける。これを聞ききて、僧都ぼんね発心はつしんして、遁世とんせいせられける。ありがたかりける母の心なり。

(注) 布施 僧に与える金銭や品物。

〈鴨長明「発心集」より〉

(現代語訳)

恵心僧都はひどく年老いた母をお持ちなさっていた。志は深かったけれども、たいして何もできなくて、思うだけで、親孝行することもなくてお過ごしなさっているうちに、豊かな立派な家で行う法事の中心の僧として招かれて、布施などたくさんお取りなされたので、たいそううれしくて、すぐに母のもとへ布施を持ってお出かけなされた。

この母は、暮らし向きが今にも途絶えそうな様子である。「どれほどお喜びになるだろう」と思っていると、(母は)これを見て、後ろを向いてさめぎめとお泣きになる。(僧都には理由が)全くわからない。お母さんは、うれしさのあまりに泣かれるのかと思っていると、少しばかりして、母が言うことには、「僧となった息子を持ったたら、私が極楽往生ごくらくおうじやうするのを助けてもらえると、長い間たのもしく思おもって過すごしました。(それなのに)目の前に、このような地獄

に落ちる原因となるようなことを見ることがありましようか。(このような目にあうとは)夢にも思おもいませんでした。」と言ことい終わらぬうちに、泣なき出した。これを聞いて、僧都は本当の仏教への心を起こして、修行しゆぎやうに専念せんねんなさった。もつたいない母の心である。

問1 内容理解 — 線①「志」とありますが、どのような「志」ですか。古文中から漢字二字で抜き出さなさい。

□

問2 心情理解 — 線②「母のもとへ相ひ具してわたり給へり」とありますが、僧都はなぜこのような行動をとったのですか。その理由を現代語訳中の言葉を使って、二十五字以内で書きなさい。

□

問3 内容理解 — 線③「世のわたらひたえだえしきさまなり」から、母のどのような様子がわかりますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 孤独、イ 病弱
ウ 貧困、エ 苦悩

□

問4 内容理解 — 線④「思ふ」とありますが、恵心僧都が思った内容が書かれている部分を、古文中から抜き出さなさい。

問5 仮名遣い — 線⑤「言ふやう」を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

()

問6 心情理解 — 線⑥「泣きにける」とありますが、母はなぜ泣いたので

すか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 我が子が立派な家の導師として招かれるようなすばらしい僧になったと知ったから。

イ 導師としてもらった布施を母に持ってきてくれる我が子の優しさがうれしかったから。

ウ 布施をもらって喜んでいる我が子の、世俗の欲にとらわれている姿が情けなかったから。

エ 自分の気持ちをおかしくてくれない我が子の思いやりのなさが情けなかったから。

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

田真、田広、田慶の三人は兄弟なり。親におくれて後、親の財宝を三つに分けて取れるが、庭前に、紫荊樹とて、枝葉榮え、花も咲き乱れたる木一本あり。

①「これも三つに分けて取るべし。」とて、夜もすがら、三人僉議しけるが、夜の

②すでに明けければ、木を切らんとて、木のもとへ到りければ、昨日まで榮えたる木が、③にはかに枯れたり。田真、これを見て、草木心ありて、切り分かつた

④と言へるを聞いて、枯れたり。まことに、人として、これをわきまへざるべしやとて、分かつたずして置きたれば、またふたたび、もとのごとく榮えたるとなり。

〔お伽草子集〕より

(注) おくれて＝先立たれて。

紫荊樹＝マメ科の落葉低木で、かぐわしい花の咲く木。

僉議しけるが＝相談したが。

これをわきまへざるべしや＝このことを知らないでよかろうか。

問1 内容理解 — 線①「これ」が指すものを説明した次の文の□に当て

はまる言葉を、古文中から三字で抜き出しなさい。

家の庭の前に生えている

の木。

問2 古語の意味 — 線②「夜もすがら」の意味として適切なものを次から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一晩中

イ 真夜中に

ウ 夜明けに

エ 毎晩

問3 内容理解 — 線③「にはかに枯れたり」とありますが、木が枯れた理由を説明した次の文の□に当てはまる言葉を、古文中から六字で抜き出しなさい。

木にも心があり、三人の兄弟が木を

言ったのを聞いて、悲しく思ったから。

問4 会話文 — 線④「田真、これを見て」とありますが、この後の田真の

会話は「草木心ありて」からどこまでですか。古文中から抜き出し、終わりの五字を書きなさい。

問5 主題 この古文の主題として最も適切なものを次から一つ選び、記号で

答えなさい。

ア 草木の生長には人間の愛情が何よりも必要であること。

イ 世の中には普通ではない不思議なことが頻繁に起こること。

ウ 兄弟であっても、自分の権利は主張すべきだということ。

エ 三人の兄弟が協力して生きることを木の心から学んだこと。

言語 1 同じ音・同じ訓をもつ漢字

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 隠しこごとはしない。
- ② 危険を悟る。
- ③ 服を肩に掛ける。
- ④ 木彫りの置き物。
- ⑤ 説明が矛盾する。
- ⑥ 花を添える。
- ⑦ 幾つか質問する。
- ⑧ 小高い丘の上。
- ⑨ 卵白を使った料理。
- ⑩ 一網打尽。
- ⑪ 元気に挨拶する。
- ⑫ 常識を超越する。
- ⑬ 猫が威嚇する。
- ⑭ 休暇を楽しむ。
- ⑮ 共通の認識。
- ⑯ パンジーのオシ花。
- ⑰ アマイお菓子。
- ⑱ オドロキの事実。
- ⑲ 赤ちゃんをダク。
- ⑳ 十四年のサイゲツ。
- ㉑ 感情をオサエル。
- ㉒ ウデを組む。
- ㉓ ほうきでハク。
- ㉔ メダカの子ギョ。
- ㉕ 彼はシユウサイだ。
- ㉖ タヨリになる先輩。
- ㉗ 織りヒメとひこ星。
- ㉘ 国のシヨウチヨウ。
- ㉙ タンテキに話す。
- ㉚ フユカイな気持ち。

1 同音異字 次の□に当てはまる漢字を書きなさい。

①

B	A
学期末の試	機械の点
□	□

②

B	A
□	□
痛をおこす。	雑な心境。

2 同訓異字 次の□に当てはまる漢字を書きなさい。

①

C	B	A
□	□	□
い茶を飲む。	本を読む。	夏だ。

②

C	B	A
税金を	成功を	学問を
□	□	□
める。	める。	める。

3 同音異義語 次の□に当てはまる漢字を書きなさい。

①

C	B	A
私生活に	煙を	病気が
□	□	□
しない。	する。	する。

②

C	B	A
意味	服を	□
□	□	□
な笑い。	する。	が伸びる。

言語

2

慣用句・ことわざ

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 曇り空を見る。
- ② 失敗を恐れない。
- ③ 欲しかった本。
- ④ 笑みをたたえる。
- ⑤ 罪を犯す。
- ⑥ 家に駆け込む。
- ⑦ 試しにやってみる。
- ⑧ 仲のよい夫婦。
- ⑨ 近所の床屋さん。
- ⑩ ことの詳細を話す。
- ⑪ 集荷の依頼。
- ⑫ 落語家の襲名披露。
- ⑬ 高慢な態度。
- ⑭ バスで送迎する。
- ⑮ 体によい乾物。
- ⑯ 山の絵をかく。
- ⑰ 時間にオクレル。
- ⑱ 映画カンシヨウ。
- ⑲ コシを痛める。
- ⑳ 朝日がノボル。
- ㉑ せっけんのニオイ。
- ㉒ トナリの教室。
- ㉓ アセが流れる。
- ㉔ 炭酸飲料のアワ。
- ㉕ 部屋をカンキする。
- ㉖ タンネンに調べる。
- ㉗ 優勝をキガンする。
- ㉘ 父のエイキヨウ。
- ㉙ ワクセイ探査機。
- ㉚ スイトウのお茶。

1 慣用句 次の慣用句の()に当てはまる言葉を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① () をかける
- ② () を脱ぐ
- ③ () をつける
- ④ () を削る
- ⑤ () を飾る
- ⑥ () を外す
- ア にしき
- イ 折り紙
- ウ かぶと
- エ 羽目
- オ しのぎ
- カ 拍車

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥

2 ことわざ 次のことわざと反対の意味のことわざを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① まかぬ種は生えぬ
- ② 立つ鳥あとを濁さず
- ③ 亀の甲より年の功
- ④ かえるの子はかえる
- ア とびがたかを生む
- イ 老いては子に従え
- ウ 柵からぼたもち
- エ あとは野となれ山となれ

- ①
- ②
- ③
- ④

3 ことわざ 次のことわざの□に当てはまる漢数字を、それぞれ一字で書きなさい。

- ① 早起きは□文の徳
- ② □聞は一見にしかず
- ③ 天は□物を与えず
- ④ 一寸の虫にも□分の魂

言語 3 類義語・対義語

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 貧富の差をなくす。
- ② 傷んだ花。
- ③ 疲れがたまる。
- ④ 獣のにおい。
- ⑤ 畳の部屋。
- ⑥ 部活を頑張る。
- ⑦ 先生と握手する。
- ⑧ 初めての渡米。
- ⑨ 鋭気あふれる。
- ⑩ 棚の奥にしまう。
- ⑪ 画廊に足を運ぶ。
- ⑫ 動物全般が好きだ。
- ⑬ 二者択一。
- ⑭ 堅実な性格。
- ⑮ 緊迫した空気。
- ⑯ 指先にフレル。
- ⑰ ナナメに線を引く。
- ⑱ スキ通る海。
- ⑲ 友人をハゲマス。
- ⑲ ピアノをヒク。
- ⑲ 鉄砲でウツ。
- ⑳ ボクの家族。
- ㉑ ゴカクの戦い。
- ㉒ 海のフユウ物。
- ㉓ 帰宅のトチュウ。
- ㉔ 駅までのキヨリ。
- ㉕ キップを買う。
- ㉖ ビミヨウな違い。
- ㉗ 妹をシヨウカイする。
- ㉘ ジュウドウの練習。

1 類義語 次の言葉の類義語を、それぞれ□に漢字を入れて完成させなさい。

- ① 心配 □ 不 □
- ② 関心 □ 味 □
- ③ 欠点 □ 所 □
- ④ 任務 □ 使 □
- ⑤ 音信 □ 息 □
- ⑥ 立身 □ 出 □

2 対義語 次の言葉の対義語を、それぞれ□に漢字を入れて完成させなさい。

- ① 単純 □ 雑 □
- ② 形式 □ 容 □
- ③ 早熟 □ 成 □
- ④ 保守 □ 新 □
- ⑤ 損失 □ 益 □
- ⑥ 故意 □ 失 □

3 対義語 次の言葉の対義語をそれぞれ後の語群から一つずつ選び、漢字に直して書きなさい。

- ① 肉体 □ ② 団体 □
- ③ 強制 □ ④ 手段 □
- ⑤ 許可 □ ⑥ 分析 □

- にんい きんし もくてき こじん そつごう せいしん

漢字の読み書き 次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 心を閉しざす。
- ② 床を傷やめる。
- ③ 掛け軸を見る。
- ④ 我が国は島国だ。
- ⑤ 素早い反応。
- ⑥ 昔の恋文。
- ⑦ 歓声があがる。
- ⑧ 荒涼な土地。
- ⑨ 約束を履た行する。
- ⑩ 新しい寝具。
- ⑪ 白地に黒の斑い点。
- ⑫ 製菓業を営む。
- ⑬ 一切を水に流す。
- ⑭ 内申点が気になる。
- ⑮ 草刈りにいそしむ。
- ⑯ 新聞記事にノセル。
- ⑰ アザヤカな色。
- ⑱ 西洋ナシの産地。
- ⑲ 罪のダイショウ。
- ⑳ 道路のハバが狭せまい。
- ㉑ メズラシイ食べ物。
- ㉒ ススミをはたらく。
- ㉓ 鉛筆をケズル。
- ㉔ モモの節句。
- ㉕ カノジョの意見。
- ㉖ ケンメイな努力。
- ㉗ カンキョウが整とう。
- ㉘ プロにヒッテキする。
- ㉙ キユウダイ点を取る。
- ㉚ 幕府のメツボウ。

1 文節 次のうち、正しく文節に分けられているものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この／計算は／正確／ではない。
- イ この／計算は／正確では／ない。
- ウ この／計算／は／正確／ではない。
- エ この／計算／は／正確で／は／ない。

2 文節 次の各文を例にならって／で文節に分けなさい。

- 例 これは／だ／い／ぶ／前／の／話／です。
- ① 多くの人が公園に集まる。
 - ② 今朝はいつもより早く目が覚めた。

3 単語 次のうち、正しく単語に分けられているものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 妹が／静かに／本を／読んで／いる。
- イ 妹が／静か／に／本を／読んで／いる。
- ウ 妹が／静かに／本／を／読んで／いる。
- エ 妹が／静か／に／本／を／読／ん／で／いる。

4 単語 次の各文はいくつの単語からできていますか。算用数字で答えなさい。

- ① 駅前に大きな書店が二つもある。
- ② 姿勢を正しくして座る。
- ③ 桜の木に白い花が咲いている。

ヒント

1・2…文節は、文の意味を壊さないように区切ったまとまり。それぞれの区切りに「ネ」などを付けることができる。
3・4…単語は、言葉の最小単位。付属語に注意すること。

①

②

③

言語

5

文の組み立て・単語の分類

漢字の読み書き

次の——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。また、必要に応じて送り仮名をつけなさい。

- ① 料理に腕を振るう。 ()
- ② 母親に依存する。 ()
- ③ 経験に基づく話。 ()
- ④ 食欲が盛んだ。 ()
- ⑤ 地域の催し。 ()
- ⑥ 風雅な暮らし。 ()
- ⑦ 普遍的な考え。 ()
- ⑧ 丈夫な体。 ()
- ⑨ 果汁を濃縮する。 ()
- ⑩ 選拔選手になる。 ()
- ⑪ 冷静沈着な判断。 ()
- ⑫ 服のしわを伸ばす。 ()
- ⑬ 教室の掃除。 ()
- ⑭ 有無を言わせない。 ()
- ⑮ 憧れの舞台に立つ。 ()
- ⑯ ダレかが来る。 ()
- ⑰ 助言が心にヒビク。 ()
- ⑱ 牛肉のアブラ。 ()
- ⑲ ジャムのビン。 ()
- ⑳ ノドあめを買う。 ()
- ㉑ 木に縄をシバル。 ()
- ㉒ 一糸乱れぬオドリ。 ()
- ㉓ 椅子にスワル。 ()
- ㉔ ネットツなファン。 ()
- ㉕ キミヨウな出来事。 ()
- ㉖ ヒユで表現する。 ()
- ㉗ 見事なチヨウボウ。 ()
- ㉘ シズオカ県のお茶。 ()
- ㉙ イワ感を覚える。 ()
- ㉚ ケイハクな対応。 ()

1 文の組み立て 次の文中から主語と述語をそれぞれ一文節で抜き出しなさい。

・図書館から母は三冊の本を借りた。

主語 () 述語 ()

2 文の組み立て 次の各文の——線の修飾語が修飾している文節を抜き出しなさい。

- ① 英語の難しい本が父の机の上に置いてある。
- ② このたくさんの問題は時間内に解けそうにもない。

① () ② ()

3 文節と文節の関係 次の各文の——線の文節と文節の関係を後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 室内の明かりが消えている。

ア 主語・述語の関係 イ 修飾・被修飾の関係

ウ 並立の関係 エ 補助の関係

① ②

4 単語の分類 次の文中から付属語で活用するものを一つ選び、記号で答えなさい。

・明日の午後から雨が降るそうだ。

ヒント

- 2…修飾語につなげて読んで、意味の通じる文節を見つけること。
- 3…補助の関係とは、下の文節が上の文節に補助的な意味を付け加えている関係。動詞の「いる」、形容詞の「ない」などが補助語になる。

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。



紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本*と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

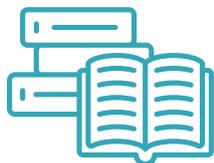
会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー
のお知らせ

